# 経済同友

August No.737

#### **Contents**

2011年度 (第26回) 経済同友会 夏季セミナー (前編)

02

### 復興と成長への挑戦

#### ■Close-up提言

リスク・マネジメント研究会 意見書 14 リスク管理、特にクライシス・マネジメントの再考 ―経営者が早急にチェックすべきポイント-

#### ■Doyukai Report

#### 会員懇談会

15

The Internet for Good ~テクノロジーが豊かにする社会~」 エリック・シュミット氏(Google 会長)

#### Seminar

#### 第106回TCERセミナー 17

「経済学の視点からの震災復興」 福田慎一氏

(東京大学大学院経済学研究科·教授、TCER理事)

塩路 悦朗 氏

(一橋大学大学院経済学研究科·教授、TCER代表理事代理)

岩本 康志 氏

(東京大学大学院経済学研究科・教授)

木村 福成 氏

(慶應義塾大学経済学部·教授、TCER理事)

浦田 秀次郎 氏

(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授、TCER理事)

#### Column

<b>巻頭言</b> 小林 喜光	01
「KAITEKIと四次元経営」	
リレートーク 飯塚 哲哉	19
「日本人とリスク対応」	
Global View チャールズD レイクリ	20

「地政学的な戦略として見るTPP交渉」 22

私の思い出写真館 長瀬 朋彦 「安倍元総理発案 兄弟対決実現!」

新入会員紹介 21

今月の表紙:世界の文様シリーズ \_

#### 【モザンビーク・ファブリック柄】

葉をモチーフにした独特のデザイン。女性の ヘッドスカーフなどに使われる柄です。自然界 の生物を文様にしたものが多くみられます。

## 巻頭言

小林 喜光



## 「KAITEKIと四次元経営」

東日本大震災は鮮烈な出来事でした。その被害の大きさはもちろんのこ と、その前後で日本人に限らず世界中の人々が、自然やエネルギー、国や 社会のあり方、そして暮らしに至るまで、その見方、考え方を一変させて しまったと言えるでしょう。

私たちはどのように生きていくべきなのか? これは大震災が起こる前 から、いや「ヒト」というものがこの世に生まれ出た瞬間からの、根源的で 本質的な問い掛けでしょう。幸か不幸か、私のいる三菱ケミカルホールディ ングスは、業態の特性から日常的にその問いを投げ掛ける必要がある企業 グループなのです。

素材・部材事業は、裾野があまりにも広く、企業としての社会還元や社 会貢献の場を直接的に目にすることが難しいため、下手をすると「自分た ちは何をしている会社なのか」を見失ってしまいがちです。そこで私は、 社長に就任してから、従業員の目標と意識を一つにするため、「私たちは 『KAITEKI』を目指そう」と呼び掛けてきました。単なる「快適」ではなく、 ローマ字で書いた「KAITEKI」。個人の生活や感覚にとどまらず、社会や 人類、地球までをも含めたところでの「KAITEKI」。それを企業活動を通 じて実現していこうというわけです。

大震災を経て、私たちはまるで、冷水でも浴びたように意識を覚醒させ、 目を見開き、新たなる日本の構築に向け動き出しました。そこであらため て私は強く感じたのです。現在の私たちが目指してゆくべきものは、やは り「KAITEKI」なのだと。

そして、地球全体が、将来世代も含め、「KAITEKI」に過ごしていくあ り方というものを一から積み上げていくため、私がかねてより提唱してい る「Management of SUSTAINABILITY (MOS)」という経営ツールを導 入した「四次元経営」を、大震災の起こった直後、この4月からスタート させたところです。

19世紀後半の若き天才詩人、アルチュール・ランボーは、「地獄の季節」 の中で「科学」というものに対して鋭い洞察を行っています。大震災を通じ、 人類はあらためて「科学」というものに対して、ランボーと同じような深い 疑念を抱き始めたと言えるでしょう。そこで私はあえて申し上げたい。 「皆さん、『KAITEKI』を目指しましょう、『科学』の力を信じながら」と。